

朝日歌壇俳壇



〈日曜日のブローチ 19〉 junaida

短歌時評「戦後」を捉えなおす

山崎 聡子

塚本邦雄の没後二十年の今年、特集企画が断続的に掲載されている。なかでも目立つのは、塚本の短歌を通して「戦後」を捉えなおす、若い世代の視点だ。はつなつのゆふべひを光らせて保除屋が遠き死を売りにくる

有名な『日本人霊歌』の一首。角川短歌五月号では、生駒大祐が「健康的な人間が死を現実的なレベルで意識するのは保険という制度と向き合う時くらい」と現代に即した読みを示した一方、狩峰隆

約一三四八万人のうち、二〇〇万人が戦死。塚本自身も軍事徴用された呉で広島への原爆投下を遠望している。青春時代を死に限りなく近接した世代にあって、戦争への憎悪は塚本の終生のモチーフだったが、それはわかりやすい「反戦」の

第1回短歌研究評論賞 短歌研究社主催。平尾勇貴さんの「引用と編集の詩学——ディレクターがあらわれるとき」に決まった。第42回で終了した現代短歌評論賞に代わる新賞。

◇朝日歌壇 入選取り消し 7月20日付の歌壇に掲載した「塚本よ驚くなかれ停車場は人ごみの中異国語の渦」は、類似した先行歌がありましたので、入選を取り消します。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほかき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300。短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

姿をとらない。その点について、歌壇七月号で黒瀬珂瀾は、「戦争の美や政治の美学化」から逃れえない日本人への塚本の透徹した眼差しを、井上法子は「戦争を、敗戦を、祖国を、安易に感傷や怒りの対象として詠むことはない」と述べ、美や死の造形を極めることで逆説的に現実への批評を成す、と指摘する。いずれも、今こそ大切な視点だろう。

風信

永田和宏選

座つても床に届かぬ靴下の白が揺れている面会の母
(大阪府) 山岡 光子
エノラ・ゲイとはその母の名ぞ広島に投下後如何に彼苦しき (小美玉市) 津嶋 修
あの頂上につけて登ったことがある見れば
見ている槍ヶ岳の槍 (館林市) 阿部 芳夫
焼岳の噴煙低く流るる日硫黄が臭ふ鍋平駅
(名古屋市) 木村 久子
月一で知らない住所に手紙出す傷病手当金請求書
(調布市) 横山 圭子
ゆふひかりほのかに透けて鉛色のガラス細工のごとき空蟬
(八尾市) 水野 一也
この水は阿蘇山系に降った雨八十年の時から
(竹田市) 伊藤信一郎
鉄腕も鉄人もいた優しさで強さが懂れたあそこ
(観音寺市) 篠原 俊則
この家に入ればあなたが城主だとおだてる夫はよき家臣なり (栃木県) 小谷野代志子
若き頃蚊が酔う程も飲んだ酒いまは刺した蚊はる酔い程度 (伊予市) 福井 恒博

【評】山岡さん、面会のわずかな時間にふと気がつく、足も床に届かないほどに小さくなった母が目の前に。津嶋さん、エノラ・ゲイは爆撃機の機長の母の名であった。その後の苦しみや如何に。最後の二首、(笑)。私を刺す蚊はすぐ墜落する。

川野里子選

☆野草摘み「たくさん食べよう」と言うガザの瓦礫に子を抱く母は(観音寺市) 篠原 俊則
披露宴終り無人のテーブルの下にはひと粒わたしの真珠 (春日井市) 金澤 清美
被爆の日その後も続けり工場の缶詰炸裂止まぬ音が (東京都) 三戸 悠紀
万博のリングの上空ブルーインパルスあの粒のなかのひとは息子 (坂戸市) 納谷香代子
千日紅は千のひと日を輝けり共同墓地の娘と夫の辺に (市川市) 山崎 蒼子
白いご飯食べて母子で海へゆき死なずに帰った戦後のある日 (生駒市) 辻岡 瑛雄
旅先の救急車内隊員の訃りやさしく「じゃけえ」「しんさい」 (半田市) 石橋美津子
☆シートベルトしろとブザーの鳴り止まず助手席に置く巨大な西瓜 (羽咋市) 北野みや子
午前二時類を就かれて目が覚める我が子は今日も宇宙飛行士 (柏市) 伊藤 智紗
人の群れが駅からビルへ流れゆく誰のものでないスピードで (東京都) 粟生 翠

【評】一首目、飢餓のガザで子を育てようとする母がいる。二首目、われに返る時見つける真珠。三首目、記憶にこびりつき今も続く炸裂音だ。四首目、編隊のひと粒となった息子は輝かしく切ない。十首目、何の力で都市は動いているのか。

佐佐木幸綱選

システムにお金を払っているような最先端の回転寿司屋 (菊池市) 神谷紀美子
☆シートベルトしろとブザーの鳴り止まず助手席に置く巨大な西瓜 (羽咋市) 北野みや子
亡き母の一周忌には卒寿群れ喜寿の吾など若僧扱い (仙台市) 堺 武男
アザラシに餌あげたから僕だって水族館のラーメン食べる (江別市) 長橋 敦
千年の闇を見つめて蘇る墳墓の兵はドローンに変わる (霧島市) 秋野 三歩
いつもとは顔ぶれ違うエレベーターラジオ体操作く子らがいて (名古屋市) 百々 奈美
弓道にさされた身ゆえ右腕のみ入らずワンピのサイズをあげる (西条市) 丹 佳子
川べりに金魚提灯揺らめいて夕涼みがまだ生きている街 (熊本市) 桑原由吏子
蟬の声を合図に毎夏現れる全裸の男クマより怖し (相模原市) 榎本 ハナ
高安が勝てば亭主はごきげんで頼みませぬのに吾が肩をもむ (取手市) 緑川 智

【評】第一首、どんな店なのかぜひ見たい、そんな気にさせる最先端の回転寿司店。第二首、最近の自動車はうるさいほどよくしゃべりかけてくる。第三首、下句「喜寿の吾など若僧扱い」に、思わず笑ってしまいました。

高野公彦選

安青錦物の見事な「内無双」母国は戦火に包まれながら (川崎市) 宇藤 順子
安青錦故国の力乗り移り粘り強さは只者にあらず (名古屋市) 立川 哲夫
出撃の30分前の写真には信念つらぬく若者の笑み (宇陀市) 吉岡 節子
尊しとつくづく思うこの国の戦死者の無き八十年を (小山市) 木原 幸江
戦前も戦中もイヤだこの先もずっと戦後であってくれぬか (船橋市) 藤本 典裕
キャンパスの大樹が囲む慰霊碑の友の名撫でし父も学徒兵 (宝塚市) 河内 香苗
☆野草摘み「たくさん食べよう」と言うガザの瓦礫に子を抱く母は(観音寺市) 篠原 俊則
天国に行けば食べ物あると言うあはらの目立つガザの子悲し (川崎市) 赤木不二男
寝さるる静かに入浴と爪切り済ます入院前夜 (奈良市) 山添 聖子
暑いなか土手の草刈る青年は「タイジョブデス」と空調ベスト指す (前橋市) 松村 蔚

【評】1首目と2首目、それぞれ先場所の安青錦の活躍ぶりに感嘆した歌。3首目、特攻隊として出撃する若者の「お国のために行きます」という信念に満ちた顔を見て、心の中で泣く作者。4首目と5首目、全ての人々が同感する歌だろう。